勇然坊

往昔、勇然坊と稱する大男があつた。彼は屢奇想天外なくはだてをし常に冒険を試み世人を驚かすを唯一の誇りとした。此坊一名琵琶法師とも云ひ琵琶の妙手であつた。或る時、彼は佐曾田の東に聳ゆる高筑紫森から小山田の山へ飛行せんと欲し、人々の諫むるも聞かず己が琵琶を携へて高筑紫森に登り勇敢にも一聲叫んで空中に跳ね上がり不思議にも勇然淵の上まで來たが遂に彼の岩頭に墜ちたのである。その時の彼の足跡や手をついた爪の痕跡が岩上にあり、又墜落と共に手放した琵琶は淵に入りて石と化したといふ。現今水中に見ゆる琵琶形の石はそれである。又法師は淵に入り主となつたといふ處から勇然淵と稱したと傳へられてゐる。